

## = 総務部通信 =

### 〔競技部・教育部合同会議〕

去る、10月27日に、午前中の教育部会の後、午後から、競技部・教育部合同の委員長会議が開催されました。森本理事長曰く、「画期的な会議」となりました。内容は、正確性を求められている、「行事報告諸表の確立と整合性」を取るための話し合いと、データの共有化を図りました。

木村副会長・森本理事長中心に、両部所管行事は責任を持って最初から最後まで遣り通す意志疎通が図れ、有意義なものになりました。話し合い後、全員で「スキー山口2009年版」の原本作成のお手伝いをいただき大変助かりました。

### 〔スキー山口〕

「スキー山口」の製版も1998年に始まり、本年度で12冊目となります。その間、連盟創立50周年を向かえ、記念誌の発刊を機に、この本が将来、連盟の歴史を紐解く上で、重要なアイテムになることを信じ、毎年編成作業に精を出しています。

### 〔事務局の現状〕

スノーシーズンといえば12月から3月までですが、4月から11月のオフシーズンの間が、「県連事務局」が多忙となる時期です。近年、通信方法の急速な発展（ネット・メール等）により、各人は便利になり情報も得やすくなった半面、事務局が扱う、事務・情報量の増加、その処理量の増加は年々増すばかりです。

そんな事情もあって、総務部の確立を図るわけですが、県内公認資格者の方にお願いがあります。

「競技のことは競技部長へ」、「教育のことは教育部長へ」、「総務事項は総務部長へ」  
「重要案件は、理事長へ」、そして副会長、会長へ。

この連絡体制を、意識改革の一つにさせていただきたいと思います。

事務局へのたった1本の電話・メールでも、受け側の事務局にとっては、多大な業務を必要とする場合があります。ミスも起こります。充分理解をお願いします。

### 〔登録会員数の減少〕

登録会員数は、4年前に1000名を割り、以降減少に歯止めがかかりません。危機的状況にあります。昨今、趣味・趣向の多様化により、お金もかかる雪山離れが進んでいますが、原点に戻り、電子通信に頼らない人間関係の構築による、会員の増加、各行事への参加の呼びかけをお願いいたします。

### 〔ジュニアスノースクール〕

本年度開催経費の高騰により、経費節減を図る為、10万枚のジュニアスノースクールの要項を手作業にて印刷します。（県連事務局と周南市総合SCに別れて、10月18日に実施。）印刷した要項は、40枚束にして、県内各市町の学校へ、歩いて回り、1校ずつ配布のお願いをしています。膨大な、作業と労力そして精神的な苦労を経ての開催準備、開催にあたっては、決め細やかな準備作業。打ち合わせ会議。そして、期間中、参加した子供達の安全確保。怪我・病気等の対応。担当役員やその他大勢の人々が関わり成り立っています。

それも全て・・・

『参加した子供達が、大満足して雪山の素晴らしさを堪能してくれることを願って。』

『スキーが大好きになって、競技・基礎スキーの雪山に戻ってきてくれることを信じて。』

文責 総務部長 島村雅宏

(確認 森本教理事長)